

1. 阪南市の現状

少子高齢化
人口減少

地域のつながり
の希薄化

ライフスタイル・価値観の多様

担い手不足
高齢化

	H30.3 月末		R5.3 月末	
人口	54,946 人	⇒	51,211 人	減
高齢化率	30.85%	⇒	34.18%	増
自治会加入率	58.3%	⇒	51.9%	減



地域課題への対応の限界・・・

2. 地域のめざす姿

地域内の様々な関係者が参加する協議組織が地域経営の指針を立て、地域の課題解決に向けた取り組みを持続的に実践する組織形成を目指す。

地域の住民や地域の各種団体が横につながり、住民同士が助け合う！

地域の各種団体が連携することで、それぞれに不足しているところを補い合っ
て活動し、重複した活動は一本化！

地域の各種団体で役割分担を行うこと
で、負担を軽減！

3. 地域まちづくり協議会って？

地域のことは地域で支える住民自治（つくり、まもり、そだてる）を進めるために、地域住民が自主的に作る組織。

組織の団体や、住民同士が協力して、よりよい地域づくりを進めるために必要な仕組みを整え、地域コミュニティの活性化と地域自治の実現をめざす。

構成は、自治会、各種地域団体、NPO 法人、事業者、地域住民など地域を取り巻く様々な人々によって構成されるものとする。

地域における一体的組織

校区福祉委員会

シニアクラブ

自治会

こども会

事業者

意思決定(役員会など)
地域全体での決めごと

婦人会

住民

実行(活動部会など)
活動を企画・実施

PTA

学校

NPO 法人

民生・児童委員

市民活動団体等

4. これまでの取組について

《令和4年度》

尾崎(9自治会)、東鳥取(20自治会)、舞(17自治会)、下荘(14自治会)の圏域ごとに研修会を3回ずつ実施。

研修会には、各地区自治会長、校区福祉委員会や地域で活動している活動団体（一部）に対し参加を呼びかけ。

研修内容は、市や地域における現状の認識やめざす姿・課題を踏まえ、私にできること、地域でできること、行政でできることなどを書き出すワークショップ。

《令和5年度》

圏域では自治会数が多すぎる圏域については、2つに分けるなど研修対象のエリアを細分化。

昨年度の研修参加者に加え、民生委員やNPO法人にも参加を呼びかけ。

研修内容は、外部講師を招き、他市のまちづくり協議会の事例や設立に向けた機運醸成についての講話や各自治会や校区が現在取り組んでいる内容について意見交換。

(仮称)地域まちづくり協議会設立のための支援として、設立に向けた準備に要する経費を年額50万円を3年間まで補助を行う「地域運営推進事業補助金」を創設。

5. (仮称) 地域まちづくり協議会のイメージ

《構成》

- ・自治会、校区福祉委員会をはじめ、地域の各種団体、NPO・ボランティア団体、事業者など、地域に関わる様々な人によって構成され、誰でも参加できる組織。

《活動》

- ・地域課題の解決やまちの魅力向上に向けて、自主的かつ主体的にまちづくりを行う活動。
- ・自らが取り組む地域のまちづくりの目標、活動方針、内容などを定めた地域のまちづくり計画に沿った活動。